

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質などの名称	コノール 20P
製品コード	431402
供給者の会社名称	新日本理化株式会社
住所	〒612-8224 京都市伏見区葎島矢倉町13番地
担当部門	環境安全品質保証部
電話番号	(075)623-3055
緊急連絡電話番号	(075)611-2201
推奨用途／使用上の制限	化学品合成原料

2. 危険有害性の要約

GHS分類 (JIS Z 7253)

自然発火性固体	区分に該当しない
急性毒性 (経口)	区分に該当しない
急性毒性 (経皮)	区分に該当しない
皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2B
皮膚感作性	区分に該当しない
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分1 (呼吸器)
水性環境有害性 短期 (急性)	区分1
水性環境有害性 長期 (慢性)	区分3

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素 (絵表示)



注意喚起語
危険

危険有害性情報

- H320 : 眼刺激
- H370 : 臓器の障害 (呼吸器)
- H400 : 水生生物に非常に強い毒性
- H412 : 長期継続的影響によって水生生物に有害

安全対策

- P264 : 取扱い後は製品が付着した体の部位をよく洗うこと。
- P260 : 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- P270 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- P273 : 環境への放出を避けること。

応急措置

- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
- 眼の刺激が続く場合 : 医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
- ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師に連絡すること。特別な処置が必要である。(P308+P311+P321)
- 漏出物を回収すること。(P391)

保管

- P405 : 施錠して保管すること。

廃棄

- P501 : 内容物、容器を国／都道府県／市町村の規則に従い廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名

単一製品
1-ドデカノール

成分	濃度 (%)	化学式	化審法	安衛法	CAS RN
1-ドデカノール (C12)	100%	C ₁₂ H ₂₅ OH	2-217	既存	112-53-8

構造式



GHS分類に寄与する成分（不純物及び安定化添加物を含む）
データなし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
呼吸に関する症状が出た場合は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

目に入った場合

水で数分間注意深く洗い、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。
医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤
二酸化炭素
水噴霧
砂
泡消火剤

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

火災によって一酸化炭素を発生するおそれがある。
加熱により蒸気が空気と爆発性混合気をつくるおそれがある： 屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険がある。

特有の消火方法

消火作業は風上から行う。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
延焼の恐れがある場合は、周囲の設備等に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

- 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- 関係者以外は近づけない。
- 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
- 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。
- 作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
- 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

環境に対する注意事項

- 環境中に放出してはならない。
- 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化方法・機材

- 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
- 危険でなければ漏れを止める。
- 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。
- 多量の場合は、土砂（土のう）や不燃材で流れを止めて回収する。

二次災害の防止策

- すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
- 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 火花、静電気、衝撃火花等による着火源の生じないように注意する。

安全取扱い注意事項

- すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
- 火気厳禁
- 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
- 吸入、飲み込みを避けること。
- 静電気対策のために、装置、機器等の接地を確実に行う。
- 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。

接触回避

- 『10. 安定性及び反応性』を参照

衛生対策

- 取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

- 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
- 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜をつけ、かつ、適当なためますを設けること。
- 『10. 安定性及び反応性』を参照。
- 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。
- 通気のよい場所で容器を密閉し、高温、直射日光を避けて保管する。

安全な容器包装材料

- 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度等

管理濃度および許容濃度は、いずれの成分も設定されていない。

設備対策

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
 工程の密閉化、局所排気その他の設備対策を使用する。

保護具

呼吸用保護具

呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

不浸透性保護手袋

眼の保護具

保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣、顔面用の保護具、保護靴等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体
色	白色
臭い	特異臭
融点／凝固点	24℃
沸点又は初留点及び沸騰範囲	259℃, 150℃/26.7hPa
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	下限：0.3%, 上限：2.6%
引火点	138℃（クリーブランド開放式）
自然発火点	250℃以上
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率（粘度）	18.3mPa・s（30℃）
溶解度	水に不溶。有機溶媒に可溶。
n-オクタノール／水分配係数（log値）	Log Pow = 5.13
蒸気圧	0.0013kPa以下（24℃）
密度及び／又は相対密度	0.82（40℃/4℃）
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

通常の取り扱いにおいては安定であり、反応性は低い。

化学的安定性

通常の取り扱いにおいては安定であり、反応性は低い。

危険有害反応可能性

通常の条件では危険有害な反応は起こらない。

避けるべき条件

高温の表面、加熱、火花又は裸火。
 直射日光を避けて保管する。
 微粉末が空気と混合すると、粉塵爆発の可能性がある。

混触危険物質

強酸、酸クロライド、酸無水物、酸化剤等。

危険有害な分解生成物

燃焼により一酸化炭素が発生する。

1 1. 有害性情報

<p>急性毒性（経口） 急性毒性（経皮） 急性毒性（吸入：粉じん、ミスト） 皮膚腐食性／刺激性</p>	<p>ラットのLD50\geq12.8mL/kgにより「区分に該当しない」とした。 モルモットのLD50\geq10mL/kgにより「区分に該当しない」とした。 データが不十分で、分類できない。 ヒトに原液を4時間半閉塞適用したパッチテスト、または4%ワセリン溶液を48時間皮膚に接触させた場合、刺激性は見られなかったとの報告がある。また、ウサギを用いた皮膚刺激性試験で10%溶液を4時間、半閉塞適用させると一次刺激指数(PII):1.3で7日後には回復したとの報告がある。これらより「区分に該当しない」とした。</p>
<p>眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性</p>	<p>ラビットの眼に0.1mL点眼し、弱い刺激性 (mild)で主に結膜刺激 であり、3-4日で回復。また、IUCLID Datasetでわずかに刺激性 (slightly irri.)のデータがあり、区分2Bとした。</p>
<p>呼吸器感受性 皮膚感受性</p>	<p>データが不十分で、分類できない。 ヒトへのMaximization試験において本物質4%ワセリン調剤の適用、モルモットへのMaximization試験において10%閉塞適用、または25%塗布で感受性は見られなかったとの報告から「区分に該当しない」とした。</p>
<p>生殖細胞変異原性</p>	<p>Ames試験で陰性、in vivoのマウスの小核試験で陰性のデータがあるが、分類できないとした。</p>
<p>発がん性 生殖毒性 特定標的臓器毒性（単回ばく露）</p>	<p>データが不十分で、分類できない。 データが不十分で、分類できない。 雄ラットを用いた本物質1.05 mg/Lを1~18時間単回吸入ばく露（4時間換算値：0.27 mg/L~4.7mg/L）した試験では、死亡例はなく、症状として自発運動減少、軽度呼吸困難、剖検で少数例の肺に散在性出血が認められた。区分1~区分2の用量の範囲で肺への影響がみられている。症状がみられた時間の記載がないため、より有害性の高い区分を採用し、区分1（呼吸器）とした。</p>
<p>特定標的臓器毒性（反復ばく露） 誤えん有害性</p>	<p>データが不十分で、分類できない。 データが不十分で、分類できない。</p>

1 2. 環境影響情報

<p>生態毒性 水性環境有害性 短期（急性） 水性環境有害性 長期（慢性）</p>	<p>甲殻類(コジツコ)96時間LC50 = 0.9 mg/Lであることから、区分1とした。 急速分解性があり、藻類(Senedesmus subspicatus)の96時間EC10（影響不明）= 0.73 mg/Lであることから、区分3とした。</p>
<p>残留性／分解性 類似化学物質の分解性との比較により、急速分解性があると推定される。（化審法DB:2012）</p>	
<p>生体蓄積性 データなし</p>	
<p>土壌移動性 データなし</p>	
<p>オゾン層への有害性 データなし</p>	

- 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号・別表第9)
1-ドデカノール (100%)
- 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9)
1-ドデカノール (100%)
- 海洋汚染防止法 : 有害液体物質 (Y類物質) (施行令別表第1)
- 船舶安全法 : 有害性物質 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
- 航空法 : その他の有害物件 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
- 化学物質排出把握管理促進法 (P R T R法) : 第1種指定化学物質 (法第2条第2項、施行令第1条別表第1)
1-ドデカノール (管理番号: 273) (100%)
- 毒物及び劇物取締法 : 該当しない

物質登録情報

TSCA (米国)	収載
EINECS (EU)	203-982-0
DSL (カナダ)	収載
AIIC (豪州)	収載
KECI (韓国)	KE-12888
PICCS (フィリピン)	収載
IECSC (中国)	収載
NZIoC (ニュージーランド)	収載
TCSI (台湾)	収載
ENCS (日本)	2-217

16. その他の情報

参考文献

- 1) NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP)
- 2) 国際化学物質安全性カード (ICSC)
- 3) 政府によるGHS分類結果

この情報は新しい知見に基づき改訂されることがあります。記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。又、注意事項は通常取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする場合には、用途 用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い下さい。